

## 東部支部だより

### 東部支部長就任あいさつ

この度、東部支部長（学会副会長）に就任いたしました国立研究開発法人海上・港湾・航空研究所、海上技術安全研究所長の宇都正太郎です。私は1985年に現組織の前身である運輸省船舶技術研究



所に入所し、以降、船舶海洋流体力学、極域工学に関する研究に従事してまいりました。当学会に関連する主な活動としてはITTC（国際試験水槽会議）及びその国内での受け皿として学会が組織しているJTTCが挙げられます。2013年からITTCの当所代表及び諮問委員会委員として活動を行ってきました。また2017年以降は大阪大学柏木教授の後任として、太平洋島嶼地区代表の理事及びJTTC委員長を務めています。近年、ITTCはIMOとの連携強化を図っており、ITTCが作成した手順書がIMOの規制に参照されることにより大きな影響力を持つようになりました。このため各国の利害が交錯する厳しい状況での議論を迫られることもあります。その際の拠り所となるのは我が国の高い研究レベルであり、学会及び会員の皆様のご貢献が非常に大きいことを改めて感じます。

2017年に東部支部から理事として選出されて以降、学会運営に本格的に携わるようになりました。様々な活動を通し、学会の重要性を改めて認識する一方で、多くの課題があることもわかりました。会員数は学会の活力を表す指標の一つです。残念ながら当学会の会員数は漸減しており、この傾向が続けば中長期的には学会の存立基盤を脅かす可能性も否定できません。皆様ご承知のように我が国の海事産業を取り巻く環境は厳しさを増しています。このような時期に学会として何ができるのでしょうか。

学会の定款第3条には「本会は、船舶及び海洋工学に関する学術技芸を考究し、船舶の性能及び安全性向上、並びに、海洋の開発利用及び環境保全を図ることにより、

我が国の発展に寄与するとともに、我が国の国民生活の向上を図ることを目的とする」と書かれています。学術技芸の考究、すなわち研究力の向上は、学会の最も重要な使命の一つであることは論を待ちません。過去2年間、柏木前日本船舶海洋工学会長のリーダーシップのもとに、学会講演会の活性化に向けた取組が行われてきました。今後も学会の様々な活動を通して研究力の向上に貢献できるように尽力して参りたいと思います。

我が国の発展に寄与するとともに、我が国の国民生活の向上を図るためには、多くの優れた研究開発の成果を社会に実装することが求められます。過去2年間、広報担当理事として携わったシップ・オブ・ザ・イヤー事業では、我が国の優れた研究開発の成果が「作品」として世の中に出るプロセスを間近に見ることができました。優れた研究力を土台に、将来の社会実装に繋がる研究開発を行うプラットフォームとしての学会の役割を強く意識していきたいと考えています。このプラットフォームにはAIやデータサイエンスなど様々な分野に携わる研究者、技術者の参画を促すことも重要です。

東部支部は前支部長の東京大学鈴木英之教授のリーダーシップで、従来の運営委員会と会務委員会の2組織を運営委員会に一本化しました。当面は手探りの運営になりますが、スリムになった体制で効率的に事業を行う体制を早急に確立したいと考えています。東部支部では主な事業として年2回のワークショップ、若手研究者、技術者を対象とした研修・意見交換会を開催しています。これらの行事に異業種、異分野の方々に多く参画していただくことにより、広く学会及び支部活動に興味を持っていただくことを目指します。また海事産業関連の団体の情報提供及び学生との交流の場として「海事産業へのお誘い」を開催し、本分野の魅力を学生に向けて発信していきます。これらの事業を行う際には、東部支部の会員の皆様の声を広くお伺いしながら進めていきたいと考えています。

微力ですが会員の皆様のお役に立てるように尽力したいと考えておりますので、皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。